

(ウ) ラテン楽器

No	楽器イラスト	楽器の知識や奏法	どんな音色？
21	<p>マラカス (maracas / 西)</p> 	<p>元々はマラカという椰子の一種の実を乾燥させたもので、中に種が残り、それを振って音を出していた。マラカ 2 個で 1 対のため、マラカスという。現在は木製や革製、プラスチック製等がある。右手に高い音、左手に低い音、水平気味にして中に入っている粒がまとまって落ちるといい音ができる。</p>	
22	<p>シェイカー (shaker / 英)</p> 	<p>中に入った細かい粒が入った物を振って音を鳴らす。筒状のものやリンゴやバナナ等の果物の形、卵型のものなどもある。マラカスもシェイカーの一種。マラカスと違い、対で持たないものもある。ラテン系の音楽の他、ポピュラー音楽などにもよく用いられ、リズムを刻む。</p>	
23	<p>カバサ (cabasa / 葡)</p> 	<p>ポルトガル語で瓢箪を意味しており、元々は中をくりぬいた瓢箪の表面に、たくさんの木の果の球を糸に通したものを緩く巻き付け、振ったり、擦ったりして音を出していた。現在は、木製の胴に金属の数珠玉を巻き付けたものが主流。片手に数珠の部分の載せ、もう片方の手で柄を回して音を鳴らす。</p>	
24	<p>カウベル (cowbell / 英)</p> 	<p>元々は牛の首に付ける金属製の鐘。牛に付けているものは中に金属の舌状のものがついていますが、ラテン音楽で用いられるものは中に舌状の金属はなく、スティック等で打って音を鳴らす。大小様々なサイズがあり、ホルダーに複数個を取り付けて演奏することもある。</p>	
25	<p>アゴゴベル (agogô / 葡)</p> 	<p>大小 2 つの三角錐型の鐘を曲げた細い棒で繋いだ楽器。スティック等で叩いて音を鳴らす。小さい方を上、大きい方を下にして持つ。ラテン系音楽や吹奏楽で使用される。有名曲には T-SQUARE の「宝島」がある。</p>	
26	<p>ボンゴ (bongo / 西)</p> 	<p>大小 2 つの片面太鼓を繋ぎ合わせたもの。元々はキューバの民族楽器で、膝に挟んだり、スタンドに付けて演奏する。手や指で叩いて音を鳴らす。スティックで音色を変えて演奏する場合もある。大きい方をエンブラ (女性という意味)、小さい方をマッコ (男性という意味) という。利き手側を大きい方にすると演奏しやすい。</p>	
27	<p>コンガ (conga / 西)</p> 	<p>樽型の胴の片面太鼓で、ボンゴ同様キューバ発祥。アフリカのトムトムが原型ともいわれている。直接、床に置き、斜めに傾けて鳴らす。複数使う場合はスタンドに置いて使用する。手で叩いて音を鳴らすのだが、指で鳴らすより、手の腹を押し付けると低い音で響く。ラテン音楽の他にポピュラー音楽でもよく用いられる。</p>	

(ウ) ラテン楽器

No	楽器イラスト	楽器の知識や奏法	どんな音色？
28	クイーカ (cuica, cuiga / 葡) 	直径 30 cm程の片面太鼓のように見えるが、皮の内側の中央に細い棒が垂直に付いており、この棒を湿った布で擦って音を鳴らす。皮を押さえたりすることで張力が変わると音が変わる。「できるかな」という昔の教育テレビに出ていたゴン太くんというキャラクターの声はこの楽器が使われていた。	
29	カホン (cajón / 西) 	箱という意味のスペイン語の通り、ただの木の箱に見える。この上にまたがり、正面を両手で叩いて音を鳴らす。打面の裏側に限等が付いていたり、サウンド・ホールが空けられている。打つところにより様々な音色がする。→Pia-no-jaC← (ピアノジャック) というピアノとカホンでライブをする2人組のユニットの名前を左から読むとピアノで、右から読むとカホンである。	

No. 21~25, 28, 29

所蔵：齊藤淳子

No. 26, 27

所蔵：川口短期大学

撮影 ©2023, J. SAITO